

聖書日課『からし種』 2025.5.4-5.11

5月4日 (日) ヨハネ 13章	「(イエスは)立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた」(4-5節)。わたしの目の前にひざまずき、足を洗い、手ぬぐいでふいてくださっている主イエスの姿が見えているだろうか。この方の祈りで私たちは今日も「キリストのからだ」として建てられている。
5日 (月) ヨハネ 14章	「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい」(1節)、「戻って来て、あなたがたをわたしのところに迎える」(3節)。これはペトロの離反予告をした直後の言葉。動揺し心騒がせていたであろうペトロに主イエスは「信じなさい」と語りかけた。裏切るペトロのもとに「再び必ず戻って来るから」という、主イエスの愛の約束が込められた言葉だったと知る。
6日 (火) ヨハネ 15章	「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい」(9節)。「とどまりなさい」は4節の「つながっていなさい」と同じ言葉。「宿る、住む」という意味もある。ヨハネ福音書の冒頭で「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」(1:14)と語られているように、主イエスがまず私たちの間に「宿られた」。その愛に「とどまりたい」。
7日 (水) ヨハネ 16章	「今はあなたがたも、悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたと会い、あなたがたは心から喜ぶことになる。その喜びをあなたがたから奪い去る者はいない」(22節)。「あなたがたも」の「も」に、先に悲しんでいる主イエスが見えてくる。「悲しみ」を抱えながら弟子たちの足を洗い、愛の戒めを説き、執り成しの祈りをささげられた。その主の愛を覚えたい。

聖書日課 『からし種』 2025.5.4-5.11

8日 (木) ヨハネ 17章	「彼らは世に残りますが、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください」(11節)。主イエスは私たちの間で「御名」をあらわされた(6節)。「御名」とは神の存在と働き。曇った目では見えないが、神は確かに私たちの間に生きて働かれ、神の光は十字架の闇の中にも輝くことを見せてくださった。ハレルヤ！
9日 (金) ヨハネ 18章	「それは、『あなたが与えてくださった人を、わたしは一人も失いませんでした』と言われたイエスの言葉が実現するためであった」(9節)。主の十字架を見つめる時、その真実の愛に応えられていない自分、神の国の食卓にふさわしくない自分を示される。けれども聖書は語る。十字架において「一人も失いませんでした」という主イエスの言葉が実現したことを。
10日 (土) ヨハネ 19章	「この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、『渇く』と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した」(28節)。十字架の前にとどまり続けた女性たちは主イエスの最期に「聖書の言葉の実現」を見届けた。「渇く」と言われるほどに、最期の時まで私たちに神の愛を注ぎ尽くした主イエス。「渇く主イエス」を通して、今日聖書の言葉を受けていこう。
11日 (日) ヨハネ 20章	「イエスが、『マリア』と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、『ラボニ』と言った。『先生』という意味である」(16節)。週の初めの日、朝暗いうちにマリアは墓に行き、外で泣いていると、主と出会うが、イエスだと分からない。しかし、主が『マリア』と自分の名を呼びかける声に主イエスだと確信した。これは大いなる喜びだ。